

城岳同窓会



創立120周年に向けて 同窓会活動の充実を図ろう!

一般社団法人 城岳同窓会会長
宮里 博史 (21期)



城岳同窓会会員の皆様お元気でお過ごしのことと思います。
さて、令和2年2月以来の新型コロナウイルス感染症の拡大は世界中にこれまでに経験したこともない混乱と変化をもたらしています。県内に於いても未だ新型コロナ禍は収まらず、日常生活、経済活動、学校や地域行事、諸団体の活動、医療体制の逼迫等混乱は続いており多くの方が直接又は間接的にその影響を受けています。被害を受けられた皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

本年の同窓会活動でも新型コロナ禍の影響を受けて事業の中止、又は延期、縮小を余儀なくされました。主な事業を振り返ってみますと、3月の春休みに派遣を計画していた「ハワイ・ショートステイ・プログラム」は2021年度、2022年度とも派遣が困難となったため募集を中止しました。このプログラムに応募予定していた在校生の皆様には申し訳ない気持ちでいっぱいです。

3月1日には第74期卒業式と同窓会入会式が行われましたがこれも出席者限定、時間短縮、簡素化しての開催となりました。今回395名の後輩たちが新たな人生へと巣立ち同窓会に仲間入りしました。心より歓迎します。

また、在校生諸君もこの1年間創立110周年の節目の年を飾るべく学業、スポーツ、文化活動面で素晴らしい活躍を見せてくれました。創立110周年を迎えた本校の輝かしい歴史と伝統を改めて認識しそれを受け継いでくれるものと期待しています。

5月26日には「二中・那覇高校創立百十周年記念事業実行委員会解散総会」を学校、PTA、同窓会代表者小人数に限定して開催しました。総会では3年間にわたる記念事業の準備から諸事業の実施状況、寄付金の状況、学校への教育機材等の寄贈、決算報告、剰余金処理、監査報告等すべての事業が終了したことを報告して実行委員会を解散しました。記念事業のうち、記念式典、記念講演会、祝賀会、ゴルフ大会等は残念ながら当初の計画から変更せざるを得なくなりましたがその他の事業に関しては実施することができました。これら記念事業に対しご支援を賜りました実行委員、同窓生、学校、PTA、関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

5月29日に予定していた「定時社員総会」「理事会」も昨年に続き書面開催とし懇親会は中止しました。本年度は同窓会役員選任もあり、代議員44名、理事19名、監事2名を書面決議により選任しました。今回役員を退任された皆様にはこれまでのご尽力に感謝申し上げます。又新しく就任された皆様には今後の同窓会活動へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

6月23日の「二中健児の塔慰霊祭」も城岳同窓会館会議室に於いて学校、PTA、生徒会、ご遺族、同窓会代表者数名による出席で実施しました。城岳公園から場所を変更して少人数による開催も3年連続となります。

こうしたコロナ禍でも同窓生の皆さんは県内外の政治、経済、教育、文化、医療等各分野で素晴らしい活躍を見せてくれました。この1年間で叙勲、県功労者、県文化功労賞、沖縄タイムス賞、琉球新報賞等を受賞された方、要職に就かれた方も多数おられます。又、同窓生による著書も多数発表されています。こうした同窓生の活躍ぶりは同窓会にとって喜ばしくかつ誇りとするところでもあります。

これらの同窓会活動について、同窓会ホームページや、広報紙でも紹介していますので是非ご覧ください。

昨年来のコロナ禍で同窓会活動も何かと制約がありますが、次の創立120周年に向けて母校支援、同窓会活動の充実を図りたいと思います。皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

1日も早く新型コロナ禍が収束して、例年通りの同窓会事業の実施、総会・懇親会開催ができること、併せて母校の発展、同窓生各位のご健勝・ご活躍を祈念します。

母校に赴任して

那覇高等学校 学校長
石原 啓 (34期)



城岳同窓会会員の皆さま、こんにちは。

このたびは、城岳同窓会会報第27号の発行、まことにおめでとうござ
います。

令和3年4月に、沖縄県立那覇高等学校第28代校長として赴任いたしました、石原啓（あきら）と申
します。

私は、本校第34期生で、卒業して41年目となっています。私が在学していた前後の頃といいますと、
大学共通一次学力試験がスタートしていましたが、中学校から高校への通学区域が那覇地区全域の大学
区制から小学区制に移行した頃でした。また、高校2年生の時の学園祭は、旧城岳会館も含め、旧いや
旧旧校舎（2代前）で開催され、その後、校舎の全面改築が始まりました。私が過ごした学び舎はす
で無く、それどころか2度目の校舎全面改築により、運動場と校舎の位置が入れ替わって、現在の状況
となっています。40年という年月を強く感じているところです。

また、昨年度は、「沖縄県立第二中学校・沖縄県立那覇高等学校創立百十周年記念事業」が新型コロナ
ウイルスの影響等により中止や変更、規模を縮小しての開催とはなりましたが、関係者の皆さまには深
く感謝を申し上げ、あらためて110年の歩みをしっかりと受け継ぎ、さらに発展させるよう教職員・在校
生とともに取り組んでまいります。今後とも、叱咤激励・ご支援をよろしくお願いいたします。

さて、学校教育を取り巻く環境は年々（いや日々かも）変化し、大変厳しくなっております。通常
のこと（予定通り）でも、次年度（令和4年度）入学生から高校教育でスタートする新学習指導要領（新
教育課程）がありますし、教職員の働き方改革の推進、人権教育の推進等、多岐にわたる事案への取組
を行っているところです。さらに新型コロナウイルスの影響は約2年を経過し、ワクチン接種が進めら
れている現在でも、収束が見通せない状況にあります。そのため、臨時休校（6月）や分散登校（6月、
9月）の実施時に、オンデマンド配信等を活用したウェブ配信による授業等も行っています。そのこと
で生徒の不安を全面的に払拭できるものではありませんが、それでも教職員は日々奮闘して取り組んで
います。また、学業だけでなく、行事や学級活動への影響、部活動への影響も計り知れないものがあ
ります。文武両道を実践し、令和3年度沖縄県高等学校総合体育大会に於いては総合成績第2位と躍動し、
全国高等学校総合文化祭にも県代表として多くの生徒が参加しています。その後（夏休み以降）、現在も
様々な形で部活動が制限されており、時期的にも高校生活全般において、各学年毎の目標を見失わな
いよう、生徒のモチベーションを維持し、高めていく方策を個々の先生方をはじめ、担任・教科・学年・
部活顧問等、場面に応じ学校全体で共通理解のもと進めているところです。

城岳同窓会の皆さまには、これまでにも多大なご支援をいただいているところでありますが、今後と
も文武両道に邁進する生徒を見守り、応援していただきますようお願いいたします。

城岳同窓会のさらなる発展と会員の皆さまのますますのご活躍、ご健勝を祈念申し上げ赴任の挨拶と
いたします。

城岳賞

第74回卒業式予行は2021(令和3)年2月27日に行われ、全九州高校新人女子の部、県高校総合体育大会及び新人卓球選手権大会等において素晴らしい実績をおさめたので、女子卓球部へ城岳賞と副賞を贈呈した。



森田邦弘副会長から卓球部へ城岳賞を贈呈



続いて副賞を贈呈

卒業式・同窓会入会式

2020年度第74回卒業式が2021年3月1日那覇高校体育館に於いて、今年も新型コロナウイルス感染禍の中、卒業生と保護者1名と入場が制限され厳粛なうちに挙行された。



引続き同窓会入会式が行われ、宮里博史会長と與那覇博明副会長が入会を歓迎。



緊張した表情で第74期生395名が整列



代表幹事として前城小桃さんと屋比久翔也さんが決意表明。



高々と女子はネクタイを男子はガクラン投げ

入学式

令和3年度(2021)入学式は4月7日に那覇高校体育館で挙行された。今年も新型コロナウイルス感染防止の為、吹奏楽による演奏は無く保護者による手拍子で新入生400名が入場。祝辞は入学式要覧に掲載、また在校生代表はビデオによる挨拶等徹底した感染対策の下で行われた。



新任の石原啓校長先生が新入生代表から宣誓を受ける。



学級担任に先導され、新入生400名が勢揃う。

A氏奨学金第13期生

一般社団法人城岳同窓会では、「学業・人物ともに優秀で経済的理由により、学業継続が困難な者に対して奨学金を給与する事により、地域社会や城岳同窓会へ貢献できる優秀な人材を育成する。」ことを目的に奨学生を募集する。平成20年にA奨学金制度がスタートして本年で13年目を迎えた。その間に37名が希望の大学へ進学した。その中から海外へ留学するなど多くの奨学生が優秀な社会人として県内外で活躍している。本年は第74期卒業生から3名を第13期奨学生として決定した。



前列左から森田邦弘副会長、下地雄斗、中原伊織、金城凛花、後列がそれぞれの保護者。



第2期奨学金の支給を前に宮里博史会長が激励する。

A氏奨学金 第13期生

下地^{ゆうと}雄斗さん 福岡教育大学 教育学部 中等教育教員養成課程 国語専攻
 中原^{いおり}伊織さん 長崎大学 多文化社会学部 多文化社会学科
 金城^{りんか}凛花さん 沖縄県立看護大学 看護学科

奨学金支給額

県内：月額 30,000円×12月（年額：360,000円） 県外：月額 50,000円×12月（年額：600,000円）

二中・那覇高創立百十周年 記念事業寄付金目録贈呈



與那覇博明副会長から上原源三校長先生へ目録を贈呈。

2020（令和2）年に県立二中・那覇高校が創立百十周年を迎えるにあたり、母校の飛躍・発展を期して学校・PTA・同窓会三者で人材育成・奨学事業・学校設備備品の充実、記念式典・祝賀会、記念講演、記念品、学校行事及び同窓会事業の充実を図るため、創立百十周年記念事業準備委員会を2018年10月に結成し2019年5月に創立百十周年記念事業実行委員会設立総会を開催。2020年10月17日に那覇高大講堂にて、南風原朝和氏（25期）東大名誉教授による記念講演を、11月28日には記念式典を八汐荘で開催した。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で会場や参加者数等当初の計画を大きく変更を迫られた。

二中・那覇高創立百十周年 記念事業寄贈品



高額で特殊な吹奏楽器等



約2千万円の寄付金の中から1千413万円の吹奏楽器及び体育備品等を3月24日の修了式で学校へ贈呈。



トレーニング室に設置された運動器機等



体育館一階に設置された姿見ミラー

慰霊祭

沖縄戦が終結して76年、今年も「慰霊の日」がめぐって参りました。本年も「二中健児の塔慰霊祭」を開催し、御霊を慰めるとともに、平和の誓いを新たにして参ります。

今年の慰霊祭は新型コロナウイルス感染防止の観点から、城岳同窓会館に於いて、参列者を限定して実施しました。来年度は平常とおり城岳公園で開催出来ますよう祈念いたします。



宮里博史同窓会長による「追悼の辞」



金城秀哉生徒会長の「誓いの言葉」



赤嶺一氏による遺族代表挨拶



平和教育授業での各学級からの感想文

海外ショートステイ・プログラム Short Stay Abroad Program(SAP)

これはA氏奨学金事業の一環として、異文化を学び国際的な視野を有する人材育成を目的として、2017(平成29)年に事業を開始した。2018(平成30)年3月に第1期生を派遣した。2019(平成31)年3月に第2期生をイオラニ・スクールとパシフィック・ブーディスト・アカデミーにそれぞれ1週間の短期留学生を派遣した。

ハワイ在住の12名の同窓生が集まり2019年3月に「ハワイ城岳同窓会」が結成され、ハワイ沖縄県人会(HUOA)とハワイ城岳同窓会(HJAA)との絆が一層強まった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、2020(令和元)年と2021(令和2)年、更に2022(令和3)年も3年連続で派遣が中止となった。新型コロナウイルス感染が収束し何時でも、何処へでも自由に行き来できる日が来ることを期待します。

2021年度（令和3年）一般社団法人城岳同窓会

《代議員・理事・監事》（任期：令和3年5月11日～令和5年代議員選挙まで）

	氏名	卒期		氏名	卒期
1	阿嘉 宗徹	1期	26	屋宜 宣秀	36期
2	屋良 幸助	12期	27	知名 洋	37期
3	上江洲 仁勇	13期	28	那須 京子（理事）	37期
4	嘉納 勝（理事）	15期	29	大嶺 和巳	38期
5	名嘉山 興武	17期	30	宮里 公江（理事）	39期
6	宮里 博史（理事）	21期	31	城間 正史（理事）	39期
7	諸見里 道浩（理事）	23期	32	有銘 寛之（監事）	40期
8	金城 美智子（理事）	25期	33	新崎 康雅（理事）	40期
9	儀間 清隆	26期	34	比嘉 基	40期
10	屋比久 洋子	26期	35	金城 寿（理事）	41期
11	山田 保（理事）	26期	36	木村 美奈子	41期
12	森田 邦弘（理事）	27期	37	宮城 忠直	42期
13	比嘉 正彦（理事）	28期	38	国吉 真二	42期
14	與那覇 博明（理事）	29期	39	仲尾次 仁	43期
15	長嶺 英男	29期	40	金城 剛	43期
16	富原 加奈子（監事）	29期	41	上原 裕幸	43期
17	川畑 順義（理事）	30期	42	久山 賢一	44期
18	宮城 勉（理事）	30期	43	山下 優子（理事）	52期
19	比嘉 梨香（理事）	31期	44	田畑 信光	55期
20	新島 郁子（理事）	32期	45		
21	砂川 英昭	33期			
22	城間 健	34期			
23	石原 啓（理事）	34期			
24	新垣 淑典	35期			
25	川満 昇治	36期			

《役員・運営委員》

役職	氏名	卒期
代表理事・会長	宮里 博史	21期
業務執行理事 兼副会長	與那覇 博明	29期
副会長	諸見里 道浩	23期
	金城 美智子	25期
	石原 啓	校長 34期
理事	比嘉 正彦	28期
	宮里 公江	39期
事務局長	與儀 幸英	20期

診療科目 整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科

医療法人 真愛会

伊佐整形外科

理事長 伊佐 眞 (25期)

〒904-2173 沖縄市比屋根2-3-3

TEL (098) 931-1111 FAX (098) 932-3330



東京オリンピック・パラリンピック ボランティアに参加して

日本卓球協会スポーツ医師

具志堅 隆 (23期)

世界中に新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が蔓延するさなか、東京オリンピック (7月23日-8月8日)、パラリンピック (8月24日-9月5日) が開催されました。私は日本卓球協会スポーツ医科学委員 (2006年～) になり、世界選手権、アジア選手権、ワールドツアーにチームドクターで帯同してきました。卓球会場 (東京体育館) では医療ボランティアとして参加しました。混合ダブルス準々決勝ドイツ戦で日本の水谷隼選手、伊藤美誠選手ペアは最終第7ゲーム、2-9の劣勢から逆転勝利した時も、決勝の中国戦勝利の瞬間も会場で応援していました。試合終了後、会場内でオールジャパンの倉嶋男子監督、馬場女子監督他日本選手団の皆で喜びを分かち合いました。卓球王国中国ペアを破っての金メダルは本当に歴史的快挙であり、男子団体銅メダル、女子団体銀メダル、個人女子シングルス銅メダル (伊藤美誠選手) と、日本は素晴らしい成績を収めました。

城岳同窓会の皆さん、初めまして。私はいまから54年前の昭和42年 (1967年) から3年間在校し、取り壊された昔の城岳同窓会館の2階で、仲間とピンポンしていました。卓球部には棚原一哉君、宜保行雄君、許田君、仲宗根君、遠山君、漢那さん他、後輩には陳国慶君がおり、陳君には休みの日にも良く私の相手をしてもらいました。3年浪人後に国費留学生として鹿児島大学医学部に入学し、大学でも卓球部に所属し、卒業後は麻酔科に入局し、麻酔科ペインクリニック医師として働きながら、現在はスポーツドクターとして活動しています。

全国的なコロナ感染者、重症者増加の状況で、東京オリンピック・パラリンピック (オリパラ) 開催の是非が問われましたが、ボランティアで選手やスタッフ

に接すると、選手たちは必ず大会開催が出来た事に、アスリートを支えたまわりのコーチや家族に感謝していました。とくに重い障害を持って参加したパラリンピックでは、障害を乗り越えて努力して、そしてメダルを獲得した光景は、競技を観戦した人に感動を与えたと思います。

いままさに原稿を書いている途中に、パラボランティア初日にお会いした橋本聖子大会組織委員長よりメールが届きました。「コロナ禍という本当に予想もしなかった事態の中でこれまでとは異なる大会となりましたが、何よりアスリートの皆さんの活躍にすべてが救われました。オリパラを通じて、たくさんの気づきをいただきました。この経験をレガシーとし、スポーツを通じて、誰もが健康に暮らせる社会、違いを認め、互いに支えあう、多様性と調和が実現した社会を構築できるように力を尽くしてまいります所存です。」

橋本さんの強い決意を感じました。本当に大事なことは、オリパラ後に国民一人ひとりが何を感じ、そしてこの時代に何を為すべきか分岐点にいることを自覚すべきではないかと思います。皆さんは何を感じられましたか。

最後に私の拙い文章にお付き合いいただきありがとうございました。原稿依頼をいただいた同級生の諸見里道浩君、城岳同窓会の與儀幸英様に厚く御礼申し上げます。



東京体育館メインアリーナ前

一般社団法人 沖縄命の電話

監事 金城 寿 (41期)

〒903-0821 沖縄県那覇市首里宜保町1-35
FAX:098-887-7847 携帯090-1870-1636

- ①悩みのある方 ②苦しみのある方 ③不登校
- ④家庭内のこと ⑤職場のこと ⑥ひきこもり
- ⑦人生に不安を抱えている方

※会員募集中、みんなで輪を広げよう。 ※HPIは沖縄命の電話で検索



大学における With コロナ対応

北里大学 学長

島袋 香子 (28期)

2020年7月に北里大学の学長を拝命し、2年目に入りました。学長就任の際には、城岳同窓会の皆様から祝いのお花を頂きました。この場を借りてあらためて、篤く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

私は、琉球大学保健学部を卒業後、最先端の周産期医療を学ぶ目的で、北里大学病院に助産師として入職しました。その後、看護学部の教員として勤務しておりますが、臨床・教育・研究の三領域に身をおける環境に魅了されて今にいたります。三領域をこなすのは大変ですが、垣根なく自由に活動出来る環境に感謝しています。北里大学には那覇高校の卒業生が数多く進学されており、大学病院で活躍されている姿を頼もしく思っていました。

さて、学長としての今の仕事は、ほぼコロナ対応です。2020年前期はオンライン授業でしたが、後期から対面授業を取り入れました。生命科学の総合大学にとって、演習・実習・実験実習は必要不可欠との考えで挑みました。三密を防ぐ環境設営や消毒薬の確保等は大学で準備できますが、要は学生の感染予防行動でした。心配していましたが、学生はよくがんばり、クラブ活動の再開や横浜パシフィコでの卒業式までこぎつけました。また、多くの病院が実習を断る中で、大学病院は実習生を受け入れ続けてくれました。大学内にPCRセンターを設け、実習生は週2回PCR検査を受けながら実習を行っています。2021年には、いち早く職域接種が行え、教育環境の拡大に期待が寄せられていましたが、変異株の存在が行く手を阻んでいます。学生には「がまんの時節だ」と話していますが、限界からか、残念な行動による感染者も出始めています。大学生活は友人関係の構築において重

要な時期です。学生生活がコロナで終わってしまうのも悲しいことだと思っています。

この状況下で、新たに試みられているのがICTを活用した対応です。教員は、Webを活用した講義等に挑戦し続けています。新入生の交流が進むようリモートお茶会を行った学部もあります。皆、様々な方法を模索し続けており、検討が進めば、新たな活路が見出せると思います。

北里大学病院はチーム医療を伝統としており、大学では、医療系学部と専門学校の上級学年が行うチーム医療演習が教育の柱となっています。今年度は学生1,118名、教職員136名が参加し、Webを用いた演習を2日間行いました。また、国際交流を行っている10大学の学生69名による国際チーム医療演習を行っています。日本にいる学生は真夜中の参加でしたが、主催校の役割をみごとに果たしました。学生が待ち望む学園祭の開催は難しい状況ですが、何かアイディアを出して挑戦してほしいと思っています。

自分の高校生活を振りかえてみても、クラブ活動が主軸の生活でした。当時、伝統ある合唱部で、クラブメンバーが一丸となってコンクールに挑みました。定期演奏会やクラブの行事を運営し、卒業した先輩方もよく指導に訪れていましたので、クラブ活動を通して組織運営や社会人としての対応を学んだように思います。対人交流が制限されるコロナは、感染症だけでなく、孤独との戦いだと思っています。コロナ禍においても成長体験の得られる大学生活の提供に向け、「不撓不屈」で対応していきたいと思っています。

グローバルエリートを育てる OKINAWA INTERNATIONAL SCHOOL

国際バカロレア一貫校



知念 正人 (31期)

青木 真紀子 (41期)

奥間 政吾 (54期)

上原 章乃 (56期)

立津 小百合 (57期)

伊是名 佳乃子 (57期)

上原 山起子 (63期)

知念 瑞希 (64期)



東京パラリンピック車いす（ウィルチェア）ラグビーのクラシファイヤー活動

東京工科大学 教授

中山 孝 (29期)

“日本、ウィルチェアラグビー銅メダル！！” 東京パラリンピックで堂々のメダルを獲得したウィルチェアラグビー。クラシファイヤーとしてその場に居合わせた私は、この大会に参加できた喜びに浸りました。大会中に29期の同期生であり、現在「城岳同窓会」副会長與那覇博明さんからこのウィルチェアラグビー活動に関する執筆依頼が来た時、迷わず快諾しました。

最初につけられたこの競技の名前は“Murder Ball（殺人球技）”。障害者スポーツで唯一車いすがぶつかり合う激しいスポーツです。ウィルチェアラグビーとの関わりは、遡ること22年前。単身南オーストラリア大学で理学療法の修士課程で学んでいた時のことです。現地の知人から、「ウィルチェアラグビーを知っている理学療法士がいるから紹介する」と誘われて市内のリハビリテーションセンターを訪れ、ある理学療法士からクラス分けの概要を教わりました。折しも、日本の友人から日本でもウィルチェアラグビーという障害者スポーツがスタートしたが、「クラス分けがよくわからなくて困っている。オーストラリアには既にナショナルチームが存在するから、機会があったら是非、情報をもたらせてくれ」との連絡が入っていました。



パラリンピックでの活動
(左端は筆者)

2年間の学業を終え、帰国後にウィルチェアラグビーのクラシファイヤーとして、この障害者スポーツを支援するとともに、現在所属する大学の理学療法学科教授として就任しました。

車いすラグビーにおけるクラシファイヤーという役割は、障害の重症度と



パラリンピックでの活動（右端は筆者）

身体機能・能力に基づいて各選手に適切なクラスを与えることです。0.5～3.5の7つのクラスに分かれますが、各チームはコートでプレイする選手4人のクラス合計が8ポイント以下になるよう選手構成する必要があります。例えば、3.5クラス2名、0.5クラス2名で計8ポイントです。0.5～1.5クラスは守備的選手、3.0～3.5クラスは攻撃の要で、ポイントゲッターです。各クラスを決めるにあたり、筋力テストを主体とする身体評価、ボールハンドリングや車いす操作などを検査する技術評価、実際の試合中のプレイを観察する評価の3つの要素から構成されますが、ヒトの動きを分析・評価する私の職業である理学療法士の知識・技能が最大に生かせるうってつけの仕事であったことは、非常にラッキーなことでした。一方で、非常に大きな責任を伴う役割でもあります。

この競技も時代の変遷とともに変化し、当初プレーヤーとして最も多かった頸髄損傷者から、近年は進行性神経筋疾患や切断者、脳性麻痺者に至るまで、プレーヤーは多様化しています。そのため公正かつ適切なクラシフィケーションは益々困難を極め、クラシフィケーションルールやその解説書も詳細な規定・記述が加わり、頻繁に修正することを余儀なくされています。また、国際クラシファイヤー資格を取得するためには、知識・技術の他に英語コミュニケーション力や適性が要求されます。私は、幸いにも留学経験を持ち、国内唯一の国際レベル3（最高はレベル4）を取得しているため、東京パラリンピックに参加できて大変光栄でした。私は今後も、世界の人々が障害の有無に抛らず、人種、世代、文化、価値観の境界を超え、自由で平等な社会を創造できるように微力ながら支援したいと思います。そして、スポーツを愛し、人を慈しむ心の尊さを忘れないよう精進します。



株式会社 カルティベイト

代表取締役 開(比嘉) 梨香 (31期)

〒900-0003 那覇市安謝2-2-12, 202
TEL:098-868-3856 FAX:098-868-3833



本土復帰50年の「沖縄」を検証中

沖縄国際大学 教授
前泊 博盛 (32期)

来年2022年5月15日で、沖縄は「本土復帰」50年の節目を迎えます。

1972年5月の復帰当時、私は那覇高校に近い城岳小学校の6年生。本土復帰でドルから円に通貨が変わり、手にした円で最初の買い物が小学校正門前の文具店で買った万年筆型の高級シャープペンシルでした。「1ドル」のシャープペンが、復帰したとたん、なぜか円で買うと「500円」に。「おばさん、1ドル305円だよ」と円ドル換算表を指差すと「ドルで買うなら1ドル。円なら500円」と一蹴され、子供ながらにドルを手放したことを後悔しました。

ニクソン・ショックで為替相場が変動相場制に移行したのが復帰直前の1971年。1ドル＝360円が一気に305円に急騰し、沖縄のドル資産は資産価値を二割も失う危機にさらされました。そんな危機を知らない6年生は「不当な交換レート」への抗議も空しく、1.6倍の価格でシャープペンを買わされてしまいました。

那覇高校3年生の時に「復帰事業」にぶつかりました。1978年7月30日。沖縄の道路交通が右側から左側通行へと変わる「交通方法の変更（ナナ・サン・マル）」です。県内タクシーも千台余の路線バスも一夜にして左ハンドルから右ハンドル車に、信号機353基が瞬時に交換されました。

その日に備え、那覇高校の校庭に石灰の白線で道路と横断歩道が描かれ、警察官らの指導で「まず右見て、次に左を見て道路は横断しましょう」と小学校低学年よろしく全校生徒で道路横断練習をさせられたのが、昨日のこのようです。

本題に入ります。大学卒業後、新聞記者、九州大大学院助教授、琉球新報論説委員長などを経て2011年に沖縄国際大・大学院教授に転じました。大学では、沖縄経済論、琉球沖縄経済史、島嶼経済論、大学院では沖縄経済特論・特殊研究を担当しています。九大大学院では安全保障論、日米安保論など軍事・基地問題を中心に調査研究、講義を担当しました。新聞記者時代に日米地位協定問題や沖縄経済



講義のゲストに鳩山由紀夫元首相も登場（左から三人目）右から二人目が筆者＝沖縄国際大学



大学教員になってメディアの出番も急増
＝「朝まで生テレビ」テレビ朝日

振興策、アジア経済などの調査報道で日本ジャーナリスト会議（JCJ）大賞や早稲田大学石橋湛山ジャーナリズム大賞などを受賞したこともあり、大学でも引き続き基地依存経済や日米安保論、基地跡利用と沖縄振興、島嶼経済と自衛隊などの調査研究を続けています。

最近では、公共交通政策や交通経済学の分野にも守備範囲を広げ、欧米で進む交通権・移動権による公共交通・バス無料化と新交通システムLRTの導入研究を続けています。

公的業務では部会長（編集長）として6年掛かりで取り組んできた戦後76年の沖縄戦後史『沖縄県史・現代編』の大仕事が、間もなく総仕上げです。復帰50年の節目は、復帰時に開学した沖縄国際大学の創立50周年の節目にもあたります。後援会副会長として「沖縄国際大学後援会50周年記念史」の編纂も大詰めです。

それが終われば復帰後の沖縄経済を総括する『検証・沖縄問題』、外務省機密文書『日米地位協定の考え方―増補版』の増補出版と、執筆が続きます。

昨年（2020年）は那覇高32期生の「還暦」大同期会の予定が、新型コロナ感染拡大で先送りされ寂しい一年でした。コロナ明けには、同期が顔をそろえ復帰50年に還暦の祝杯を酌み交わす日が来ることを楽しみにしています。



* 二中・那覇高校創立百十周年記念事業へ、新たに5名の方々から寄附を戴きました。
阿部 昌子 (13期)、上里 祐子 (20期)、前泊 盛博 (32期)、諸見 牧子 (36期)、諸見 春輝 (67期)

* 二中・那覇高校創立百十周年記念事業寄附者ご芳名欄へ誤記載がありました事に深くお詫び申し上げます。ここに訂正させて戴きます。
城間 祥之様 (那覇高26期)、外間 裕朋様 (那覇高33期)、安藤 岳史様 (那覇高35期)

編集後記

2020年に続き21年もコロナ禍となりました。3月に転任した上原源三校長は最後の「校長だより」に、395人全員が卒業できたことへの喜びと安堵を綴っています。修学旅行の中止、臨時休校、分散登校などまさに“前代未聞”の連続だった1年。時代に翻弄された経験が、卒業生を遅しくしてくれるだろうと結んでいます。

卒業式では同窓会入会式もなされ、「遅い新同窓生」たちが加わることになりました。これからは先輩の立場で母校の応援をお願いします。

会報執筆の4氏、会員、企業の広告等、ご協力に感謝申し上げます。

会報は與儀幸英事務局長 (20期) の記事・写真、宜壽次美智 (45期) のレイアウト、校正・諸見里道浩 (23期) でお届けします。

城岳同窓会の終身会費について

一般社団法人城岳同窓会は会員相互の親睦を図るとともに、那覇高等学校の発展に寄与すること及び地域社会に貢献する事を目的としております。また、本会の経費は会員の拠出金、寄附金、事業収益金及びその他の収入をもって充ております。

さて、会員の拠出金は、年会費1,000円または、終身会費5,000円によって賄われております。年会費を一括で5,000円を納入した場合は、終身会費と見なし、以後年会費は徴収致しません。伝統校の誇りと自信に満ちた校風の継承と発展の為、同窓生一人ひとりの積極的なかわりとご芳志をお願い致します。

振込先 琉球銀行桶川支店 店番号 314 口座番号 普通 338301

口座名義人 一般社団法人城岳同窓会 会長 宮里 博史 (ミヤザトヒロシ)
ご芳名の前に卒業期をご記入下さい。

問い合わせ 一般社団法人城岳同窓会 事務局 與儀 幸英
〒900-0014 沖縄県那覇市松尾1丁目21番53号 TEL (FAX) : 098-867-2525

城岳同窓会館のご案内

「母校に同窓会館を」との声が同窓生の間から叫ばれ、同窓生各位のご尽力により平成8年に実現しました。会館は同窓会員の親睦の場です。会員のみなさん、どうぞご利用下さい。

- ・ 2階は二中・那覇高の歴史を後世に語り継ぐ資料展示室及事務室
- ・ 3階は会員のクラス会、会議、趣味の集まりなどに利用でき、収容人員は50人です。なお、使用料金 (光熱費) は1団体：1時間800円です。
- ・ 4階は自学自習室として、学校が活用しています。

編集発行 一般社団法人 城岳同窓会

〒900-0014 沖縄県那覇市松尾1-21-53 電話・FAX 098-867-2525
事務局 E-mail:yogi@jogaku.or.jp

城岳同窓会ホームページ <http://jogaku.or.jp>